



真栄

自然を愛し、風雪に耐えて立て



<https://www16.sapporo-c.ed.jp/shinei-j/>

第36回卒業証書授与式

本日、第36回卒業証書授与式を挙行了いたしました。156名の卒業生の皆さん、保護者の皆様、御卒業おめでとうございます。また、小学校の先生方や地域の皆様など、たくさんの方々から御祝辞をいただきました。誠にありがとうございました。

本号では、式当日の校長式辞、在校生からのお祝いの言葉、卒業生からのお別れの言葉を御紹介いたします。

校長式辞

今年の冬も、雪が少ないと思っているうちに突然の大雪になるなど、時に優しく、時に厳しく、まるで皆さんの成長を見守るような冬でした。その深い雪を割り、今、皆さんは新しい光の中へと踏み出そうとしています。

札幌市立真栄中学校を卒業する156名の卒業生の皆さん、御卒業おめでとうございます。また、この佳き日に本校PTA会長様をはじめ、パートナー校である小学校の校長先生方、地域の皆様、そして卒業生保護者の皆様の臨席を賜り、ここに第36回卒業証書授与式を挙行できますことが大きな喜びです。皆様には、心より感謝申し上げます。

さて、卒業生の皆さん。今、一人一人に卒業証書を手渡しました。これは中学校だけではなく、小学校と併せて9年間の義務教育を修了したこと、つまり社会人として自立するための「出発点」に立ったことを意味します。その卒業証書を手にすることができた喜びの陰に、今日までの15年間、我が子の健やかな成長を願い、慈しみ、育ててこられた保護者の皆様がいらしたことを決して忘れてはいけません。今日の喜びは、皆さんの成長を心から願うすべての方々喜びでもあるのです。

皆さんの中学校生活は、「答えのない問いが続き、予測が困難な時代」の始まりとともにありました。この激しい変化を前向きに受け止め、人生をより豊かにしていくためには、どうすべきかを主体的に考え出す力が求められています。この力こそが「生きる力」であり、まさに真栄中学校で過ごした3年間で、皆さんが一歩ずつ身に付けてきたものに他なりません。

皆さんは、この3年間、学校行事や日々の生活を通して、落ち着いた、温かい校風を築いてきました。校長として、その誠実な姿を心から誇りに思っています。そして、皆さんとともに歩んだこの真栄中学校は、私自身の誇りでもあります。本当にありがとうございました。

ここで、皆さんに、二つのお願いがあります。一つ目は、今日、家に帰ったら、自分を育み慈しんでくれた方々に、卒業証書を見せながら、お礼の言葉を照れずに伝えてください。そして、「これからもよろしく願います」と、素直に、お願いをしてください。本当の自立とは、誰の助けも借りないことではありません。自分を支えてくれる人の存在を認め、感謝の気持ちを言葉にできること。それが、大人への第一歩だからです。

二つ目は、私が何度も伝えてきたとおり、これからも、かけがえのない「命」を大切にしてください。自分を傷つけることなく、他の人も傷つけることなく、いつまでも健やかに過ごし、「未来をきり拓く、たくましく心やさしい人」であってください。

保護者の皆様、そして本日会場にお越しの皆様。私たち教職員一同、お子様の健全な育成に誠心誠意努めてまいりました。至らぬ点もあったかと存じますが、皆様の並々ならぬ御理解と御協力があつたからこそ、この佳き日を迎えることができました。この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

結びに、皆さんに伝えたいことがあります。世の中には、「なりたい夢」と「なれる夢」は違うと言う人がいます。それは、確かに一つの現実かもしれません。思い通りにならないことも、人生にはたくさんあります。しかし、だからといって最初から「なれるもの」に自分を合わせてしまわないでください。大切なのは、結果以上に、その夢にどれだけ真っ直ぐ向き合えたかです。必死に手を伸ばし、歩き続けた時間は、たとえ目的地が変わったとしても、決して皆さんを裏切りません。積み上げた努力は、いつか必ず、別の形となって皆さんを支えてくれます。どうか、自分の可能性に蓋をせず、自分の夢に向かって、一歩ずつ歩みを進めてください。皆さんが、真栄中学校の卒業生であることを誇りに、それぞれの道を歩み続けることを願っています。

皆さんのこれからの人生が、実り多いものであることを心から祈り、私の式辞といたします。

在校生からのお祝いの言葉

雪解けも進み、徐々に景色が色づき始める季節となりました。卒業を迎える3年生の皆さん、御卒業おめでとうございます。在校生を代表して、お祝いの言葉を述べさせていただきます。

3年生の皆さんの固い絆には、いつも心を大きく動かされていました。体育大会では、どの競技にも全力で取り組み、いつも心を大きく動かされていました。体育大会では、どの競技にも全力で取り組み、熱い声援が飛び交っていたのを今でも鮮明に覚えています。閉会式の際には、喜びを分かち合う声も、悔しさに涙する声も聞こえ、最後まで戦ったその姿には誰も心を打たれたことでしょう。また、合唱コンクールでは、同じ練習期間とは思えない、完成度の高い合唱を披露してくださいました。途切れることなく響き渡ったその歌声は、私たちの記憶に残り続け、これからの真栄中学校の歴史の基盤となるでしょう。

行事だけでなく、部活動、委員会活動など様々な場面で前線に立ち続け、私たちを導いてくださいました。しかし、その大きな背中に背負った「最上級生」という立場には、どれだけの重圧があったことか、私たちにはまだ計り知れません。それでも前へ前へ突き進み、いつでも背中を押してくれた皆さんに、この中学校人生をより良いものに変えてもらった人も少なくないでしょう。私もその中の一人です。部活動での取り組み方、勉強や行事に向かう姿勢もそうですが、今私がここに立っていることが私にとって一番の変化だと思います。「待っているよ」というその一言が私の人生を大きく変えてくださいました。憧れはいつか当たり前になる。そう導いてくださったのは、紛れもなく3年生の皆さんでした。

皆さんにとって、私たち1、2年生はどのような存在だったのでしょうか。皆さんに比べて、経験も浅く、頼りない面も多々あったと思います。しかし、それで終わる私たちではありません。これから大空へ飛び立つ皆さんに負けないくらい大きな翼を育て、またどこかで会えたときには、次は私たちが皆さんを支えると、今ここで約束します。この先、不安に押しつぶされそうになる日も必ずあると思います。それでも、皆さんは決して一人ではありません。皆さんの隣には、この長い3年間を共にした仲間がいます。皆さんの後ろには、皆さんを支えると約束を交わした私たち後輩がいます。あとは羽ばたくだけです。自分が進みたいと思った道へ、自分がなりたいと思った姿へ、自分の夢に向かい、走り続けてください。その道の先で、迷いや不安の霧が晴れたとき、皆さんはより一層輝きを増すでしょう。その輝きが自分だけでなく、多くの人の人生を照らす光になることを願っています。

令和8年3月13日 在校生代表

卒業生からのお別れの言葉

肌寒い風が吹きつつも、暖かい日差しが私たちを照らしてくれる季節となりました。本日は、私たち卒業生のために、このような素晴らしい卒業式を挙げていただき、誠にありがとうございます。また、お忙しい中、御出席くださいました御来賓の方々、先生方、保護者の皆様、在校生の皆さんに卒業生一同心より御礼申し上げます。今日この日、私たち第36期は卒業を迎えます。

思い返してみると、この真栄中学校で過ごした日々は、長いようで短い3年間でした。入学当初は、難しくなる勉強や初めて出会う友達、新しくなる環境でうまくやっていけるかと不安を感じていました。しかし、いざ学校生活が始まると、自分の想像していたものの何倍も楽しい日々が待っていました。だんだんとその楽しさは、一人で感じるものから、仲間と分かち合うものへと変わり、私たちは少しずつ仲間の大切さを知っていったのだと思います。

体育大会や合唱コンクール、見学旅行などの行事は、まさにその象徴でした。体育大会では、みんなで盛り上げ、助け合いながら行事に参加することができました。練習のときから、どんな作戦でいくかを相談し合ったり、掛け声や円陣などを考えたり、本番が待ち遠しくなるような時間でした。また、その団結力はクラスだけではなく、学校全体にも影響していました。当日の選抜リレーでは、学年の垣根を越え、全校生徒の団結した応援がグラウンド中に響き渡っていました。

合唱コンクールは、今年の賑やかな雰囲気とは一変し、嬉し涙、悔し涙で溢れていました。3年生の私たちにとっては、みんなで作り上げる最後の行事で、どのクラスも仲間とともに金賞を目指して合唱練習に取り組みました。その結果、今まで以上に心が一つに重なり合えたことと思います。本番の合唱では、思い通りにいかず悔しい思いを経験した人もいたかもしれません。しかし、その一つ一つが、今ではかけがえのない思い出です。

また、部活動や生徒会活動でも私たちは多くの学びと経験を得ることができました。私の場合は生徒会でしたが、どの活動も仲間との協力がなければ成し遂げられないものばかりでした。実際に行事を運営し、ステージ上から皆さ

んの笑っている表情を見ることで何よりもやりがいを感じました。生徒会役員として活動させていただけて、本当に良かったと思います。

この3年間、仲間と笑い合い、時にはぶつかり合いながら過ごした日々は、私たちを大きく成長させてくれました。しかし、今日、この真栄中学校に別れを告げるときがやってきました。ここまでくることができたのは、周りの支えがあったからこそです。先生方、授業や部活動、生徒会活動を通して、私たちを御指導してくださり、ありがとうございました。勉強の相談から、些細な雑談までたくさん私たちに寄り添ってくれました。特に、進路を決めていく際には、不安を抱える私たちに真剣に向き合い、考えてくれて、とても頼りになる存在でした。

そして、保護者の皆様。いつも家で私たちのことを支えてくださり、ありがとうございました。私たちはあまり素直になれず、ときに当たってしまうこともあったと思います。それでも、毎日私たちをサポートしてくれたり、不安でたまらないときや挫折してしまったときには励ましの言葉をくれたり、本当に感謝しています。きっとこれからも迷惑をかけてしまうかもしれませんが、成長していく私たちのことを一番近くで見守っててください。

次に在校生のみなさん。今までみなさんと過ごした日々も、私たちにとってかけがいのないものです。これから、みなさんは2年生、3年生へと進級します。受験期も近づき、大きな壁にぶつかってしまうこともあると思いますが、仲間との協力を大切にして乗り越えていってください。また、この学校生活は本当にあつという間です。みなさんには、日々を淡々と過ごすのではなく、卒業するときに楽しかったと思えるような学校生活にしてほしいです。

最後に、3年生のみんなへ。私はみんなと過ごした楽しくて賑やかな日々が大好きでした。行事、日常生活など様々な場面で育んできた私たちのこの団結力は、真栄中一のものだと思っています。みんなと授業を受けて、休み時間には他愛もない話をして、ときにはすれ違い、喧嘩をしてしまったこともあったけれど、どの思い出もきっと私たちの支えとなります。これから、私たちはそれぞれの道を歩んでいきます。この先どんなことがあっても、私たちなら私たちがらしく乗り越えていけるはずですよ。

最後になりましたが、今まで私たちを支えてくださったすべての方々に御礼申し上げるとともに、これからの真栄中学校の更なる発展を祈念し、答辞とさせていただきます。

令和8年3月13日 卒業生代表

